

2024年2月19日

アウディ インゴルシュタット： 2024年1月からネットカーボン ニュートラルな生産を開始

- 発表予定の電気自動車 Audi Q6 e-tron シリーズをはじめ、インゴルシュタット拠点で生産されるすべての車両はネットカーボンニュートラルな方法で生産
- 生産およびロジスティクス担当取締役 ウォーカー：「インゴルシュタット拠点のエネルギー源を再生可能エネルギーに切り替えることで、ネットカーボンニュートラルな車両を生産するという目標に向けて大きな一歩を踏み出した」
- 環境プログラム Mission:Zero の一環として、アウディのすべての拠点は 2025 年までにネットカーボンニュートラルな生産を実現

(ドイツ本国発表資料) 2024年1月31日、インゴルシュタット：アウディのインゴルシュタット工場は、2024年1月1日からネットカーボンニュートラルな方法による生産を始めています。これにより、この工場は、ブリュッセル（ベルギー、2018年）とジェール（ハンガリー、2020年）に続き、ネットゼロエミッションで稼働するアウディの3番目の工場となります。一方、Audi R8 および Audi e-tron GT quattro は、既に2020年からベリンガーホフ工場でカーボンニュートラルな方法で生産されています。アウディは、Mission:Zero 環境プログラムとして、2025年までに世界のすべての拠点でネットカーボンニュートラルを達成するという目標を設定しています。ネッカーズルムとサンホセチアパ（メキシコ）の生産拠点においても、その目標に向けた最終段階を迎えています。

AUDI AG 生産およびロジスティクス担当取締役 ガード ウォーカー（Gerd Walker）は、「環境保護に最善を尽くすことは、アウディの企業戦略の根幹となっています。私たちは、インゴルシュタット拠点のエネルギー源を再生可能エネルギーに切り替えることで、ネットカーボンニュートラルな車両を生産するという目標達成にさらに近づきました」と強調しています。この目標を達成するために、アウディは4つの柱から構成されるコンセプトを策定しました。

1. エネルギー効率の向上

まず最初のステップは、アウディ拠点のエネルギー効率を改善することです。これにより、既に大量のCO₂排出量が削減されます。例えば、2022年にはこれらのエネルギー管理対策により、インゴルシュタット拠点では、35,000メガワット時（MWh）を超えるエネルギーを節約し、5,000トン以上のCO₂排出量を削減しました。

アウディが自社開発した Energy Analytics（エネルギー分析）プラットフォームは、この目標の達成に大きく貢献しました。Energy Analytics は、社内の生産プロセスにおける様々な現場から大量のデータを収集し、オンタイムでコンパイル、プレパレーション、プロセッシングといった一連の処理を実行するソフトウェアベースの分析システムです。このプロセスは、大量のデータに対して統計学やAIなどを駆使した分析を行う、データマイニングとして一般的に知られています。分析結果は、ユーザーが分析の重要な結果をすぐに特定できるように視覚的に表示されます。これにより、不要なエネルギー消費の原因をより簡単に理解して分類、その上で潜在的なエネルギー節減の可能性を特定し、最終的に適切な対策を導き出します。

2. 拠点内で再生可能エネルギーを生成

再生可能エネルギーによる電力を自社で生成するのが、次のステップです。これまでに、インゴルシュタット工場の 23,000m² の敷地に、太陽光発電モジュールが設置されています。今後数年アウディはすべての生産拠点で自ら生成するエネルギーの割合を増やし続けます。現在、本社工場では約 41,000m² の太陽光発電モジュールの建設を計画しており、その一部は既に着工しています。

アウディは発電に加えて、カーボンニュートラル* な方法による熱エネルギーの自社生成にも注力しています。また、ヒートポンプを利用し生産工程の廃熱を再利用するなどして、熱エネルギーの生成を徐々に増やしていく計画です。

3. 再生可能エネルギーの購入

3 番目の柱として、アウディはエネルギーの調達も、ネットカーボンニュートラルな方法に移行しています。アウディは、2012 年初頭から、インゴルシュタットでグリーン電力のみを使用して車両を生産しており、当時の自動車業界において、サステナビリティ分野の先駆者となりました。

アウディグループ環境保護責任者 Dr. リュディガー レクナゲル (Rüdiger Recknagel) は、「インゴルシュタット工場に隣接する製油所と都市廃棄物リサイクルプラントから、ネットカーボンニュートラルな廃熱が供給されています。さらに、ネットカーボンニュートラルな熱供給を確保するために、大量のバイオガスを確保しました」と説明しています。

4. 現時点で避けられない CO₂ 排出量を相殺

このようにして、インゴルシュタット拠点は、エネルギー需要のほぼすべてを再生可能エネルギーで賄っています。最後となるコンセプト 4 番目の柱として、アウディがまだ回避できていない排出量 (従来の CO₂ 排出量の最大 10%) は、Gold Standard など最高の品質基準に従って認定されたカーボンクレジットを購入することで相殺しています。この独立機関による品質基準は、厳選された気候保護プロジェクトのみが適合されています。アウディはこれらの証明書を通じて CO₂ 排出量を相殺し、特にグローバルサウスにおける風力発電所の建設に投資しています。例えば、インゴルシュタット工場の場合、物流から排出される CO₂ をこのようなプロジェクトで相殺しています。

Mission:Zero : 脱炭素のその先へ

環境プログラム Mission:Zero の対策は、脱炭素化を超えて、水の再利用、資源の効率化、生物多様性の保護と保全という主要な活動分野にも取り組んでいます。アウディの目標は、プラスチック、水、その他の原材料などの資源を一定のサイクルの中で有効活用し、循環型の生産体制を構築することです。例えば、インゴルシュタットでは、水資源をさらに効率的に活用するために、2019 年から膜分離活性汚泥法 (MBR : membrane bioreactor) によるプロセス水の供給センターを運営しています。2023 年、アウディはプレミアム自動車メーカーとして初めて、責任ある水資源管理を行うための機関、Alliance for Water Stewardship (AWS) に参加しました。アウディは、2035 年までに世界中の生産拠点で、環境にとって重要な水の消費量を半減させることを計画しています。メキシコのサンホセチアパの生産拠点は、2018 年以来、廃水を一切出さずに車両を生産しており、水資源の責任ある利用の模範的な工場となっています。

アウディは、「Biodiversity in Good Company」(ビジネスと生物多様性) イニシアチブのメンバーとして、すべての拠点で生物多様性の保護にも取り組んでいます。ミュンヘンシュタット拠点の敷地外にあるオープンスペースは、自然の形に近い状態を維持するように設計され、約 17 ヘクタールのこの敷地

は、多種多様な動植物の生息地となっています。

360factory と持続可能な土地利用

アウディの拠点を更に開発を進めるにあたり、持続可能性は非常に重要なポイントです。アウディのeモビリティへの移行に伴い、生産部門は世界的な生産ネットワークの包括的な変革を行い、360factoryによる将来の生産についての明確なビジョンを策定しています。アウディは総合的で持続可能なアプローチの一環として、将来に向けて、既存の工場の近代化、デジタル化、変革を進めています。この360factoryのコンセプトを活用することで、生産における柔軟性と効率性の向上が期待できるため、新しい建物を建設のための新たな敷地の確保は不要となります。

アウディは持続可能な土地利用に関して、かつての工業用地を再活性化することで、この取り組みを進めています。インゴルシュタットの南にある incampus も、本社工場に付属する部門として、アウディの持続可能性活動に組み込まれています。AUDI AG とインゴルシュタット市との合併事業による incampus の建設では、持株会社の IFG AöR を通じて、incampus GmbH が、インゴルシュタットの東にある 75 ヘクタールの利用されていなかった工業用団地を再開発しました。ここでは、新しい土地を開発することなく、テクノロジーパークが建設されました。総面積のうち 15 ヘクタールが、自然および景観保護区域に指定されました。このエリアは、もともと栄養分の乏しい痩せた土壌でしたが、現在では草木が生い茂り、自然に近い状態の林が広がっています。

*CO₂ 排出量「ネットゼロ」に関するアウディの解釈は、あらゆる削減対策を取り入れた後で、アウディの製品や活動によって排出される CO₂、もしくはアウディのサプライチェーン、生産、リサイクルにおいて現段階では排出が避けられない CO₂ は、世界各地で実行する自主的プロジェクトで相殺するというものです。車両の使用段階で排出される CO₂、すなわちお客様へ納車された時点から発生する CO₂ 排出量は考慮されていません。

※本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。

フォルクスワーゲン グループ ジャパン株式会社
アウディ ジャパン 広報部

報道関係者お問い合わせ：
<https://audi-press.jp/contact/>

アウディ ジャパン プレスサイト
<http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ：
アウディ コミュニケーション センター
0120 - 598106



アウディ グループは、プレミアムおよびラグジュアリーセグメントの自動車およびオートバイのメーカーです。グループに属するアウディ、ベントレー、ランボルギーニ、ドゥカティのブランドは、12 カ国 21 か所で生産されています。アウディとそのビジネスパートナーは、世界 100 以上の市場に存在しています。2022 年、アウディ グループは、161 万台のアウディ、15,174 台のベントレー、9,233 台のランボルギーニ、および 61,562 台のドゥカティを販売しました。2022 会計年度において、アウディ グループは総収益 618 億ユーロ、営業利益 76 億ユーロを達成しました。世界中で、アウディ グループでは 2022 年に 87,000 人以上が働き、そのうち 54,000 人以上がドイツの AUDI AG で働いていました。魅力的なブランド、新しいモデル、革新的なモビリティサービスにより、グループは持続可能で個性的なプレミアムモビリティプロバイダーへの道を着実に歩んでいます。
